

秀賞

Y e s、A n d !

福島県須賀川市立第二中学校

1年 近内 絢也子

みなさんは「Y e s、A n d !」という言葉を知っていますか。わたしは昨年、「福島こども未来塾」というプログラムに参加し、その中で初めてこの言葉に出会いました。直訳すると「はい、そして」という意味ですが、そこには「まず相手や出来事を受け入れる。そして次に、自分から一歩前へ進んで挑戦していく」という思いが込められています。何事も「N o」と拒むのではなく、「Y e s」と受けとめ、さらに「A n d」で自分なりの行動を重ねていく——その考え方を知ったとき、わたしは強く心を動かされました。

小学校ころのわたしは、どちらかというと新しいことに踏み出すのを面倒だと思っていました。友達から誘われても「できないかもしれない」「やらなくてもいいかな」と思ってしまい、やらないまま終わってしまうことが多かったのです。でも未来塾でのダンスプログラムの中で、仲間たちと出合った意見をお互い「Y e s」で受けとめて、それを「A n d」でつなげることで発表を仕上げていきました。お互いを否定せず、挑戦を楽しむ仲間の姿にふれて、わたしも「自分もやってみよう」という気持ちになれたのです。

そして今年の春、中学校に入学しました。新しい学校、新しい制服、新しいクラスメート。小学校ころの友達はクラスには少なく、最初は緊張でいっぱいでした。小学校に戻りたいと思うことも多かったです。自己紹介のときも声が震え、「中学校生活、やっていけるかな」と不安でたまりませんでした。けれど、そんなときこそ「Y e s、A n d」の出番だと心に言い聞かせました。「新しい環境に戸惑うのは当たり前。でも、それを受け入れて、その上で何ができるかを考えよう」と思ったのです。

その気持ちで過ごしていくと、少しずつ行動が変わりました。クラスメートに話しかけるときの、「知らない人だから恥ずかしい」ではなく、「知らないからこそ話してみよう」と思えるようになりました。授業で当てられたときも、「間違えたらどうしよう」ではなく、「Y e s、A n d。まずは答えてみて、それから考え直せばいい」と気持ちを切り替えられるようになりました。失敗は悪いことではなく、自分の成長につながる種だと知ったのも、この言葉を知ったからです。

中学生になって最初に挑戦したのは、市のジュニアボランティアへの参加です。他の学校の中学生と一緒に防災について学んだり、少年の主張大会のお手

伝いをしたりしました。秋には市のイベントの補助員として、多くの人と関わる予定です。わたしにとっては初めてのことばかりです。初めて会う人とのコミュニケーションはやはり緊張しますが、「まずは笑顔であいさつしてみよう。そして、そこから少しずつ会話を広げていこう」と考えています。

もう一つの大きなチャレンジは、生徒会役員選挙に立候補したことです。正直、立候補するかどうか、最後まで迷いました。「わたしなんかにできるのだろうか」「みんなの前で演説するなんて無理だ」と弱気が出てきてしまったからです。でも「Y e s、A n d」の言葉を思い出しました。「まずはやりたい気持ちを受け入れよう。そして勇気を出して一步を踏み出そう。」その思いで立候補を決意しました。立会演説会や選挙はこれからですが、自分の気持ちが聞いている人に伝わるような演説をしたいと思っています。生徒会役員になれば、役員のメンバーと協力しながらいろんなアイデアを出して、過ごすのが楽しい学校にしていけるようがんばりたいと思っています。

これからの中学校生活、きっともっと大きな壁に出合うと思います。勉強、部活動、友達との関わり、そして進路。悩むことも、つらくなることもあるかもしれません。でも、わたしには「Y e s、A n d」という大切な合言葉があります。この言葉と一緒に、どんな場面でもチャレンジを続けたいと思います。

わたしにとっての「チャレンジ」とは、特別なことではありません。それは、「できない」と諦めていた自分に「大丈夫、できるよ」と声をかけること。そして、少しだけ勇気を出して新しい一步を踏み出すことです。この「Y e s、A n d！」という言葉は、きっとこれからもわたしの道しるべとなって、たくさんの「やってみよう」という気持ちを与え続けてくれるはずです。これからもこの言葉を胸に、自分だけの未来を切り開いていきたいと思っています。